

【所属名：市民部環境生活課環境係】

## 会 議 録

件名	令和元年度 第4回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会				
日	令和2年3月24日(火)	時間	13時30分から 14時30分まで	場所	市民会館3階会議室
出席者	・委員名【出席】 荒木委員、武田委員、中山委員、福崎委員、久保田委員、齋藤伸一委員 小野垣委員、松澤委員、中澤委員、斎藤富貴子委員、葉茸委員 【欠席】 小野委員、山本委員、石井委員、園田委員、大月委員				
	・事務局【環境生活課】 高野課長、小竹係長、横澤主査 【ガス水道局】 谷口次長、丸山主査				
	傍聴者定員		—	傍聴者数	1

### 会議要旨

- 1 開 会 (進行：小竹係長)
- 2 あいさつ (高野環境生活課長)

### 3 議事

- (1) 第2次糸魚川市一般廃棄物処理基本計画(案)のパブリックコメントについて 資料No. 1
- (2) 第2次糸魚川市一般廃棄物処理基本計画(案)について 資料No. 2
- (3) 意見交換

資料No.1及び資料No.2に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

<主な質疑・意見>

議 長) 挨拶。コロナウィルス対策として、本日の審議は14時30分までとする。

事務局) 資料1(パブリックコメントへの回答)の説明

- ・資料2について基本計画案の変更点のみを説明する。
- ・P13:「廃水銀は試薬として資源化」に修正。
- ・P34:「海岸漂着物処理推進法」と略称とする。
- ・P41:「水質環境」を「水環境」に修正。
- ・P44:「5 生活排水処理対策」の表を箇条書きとした。
- ・P45:「第5章 計画の進行管理」を追加した。
- ・P51:「1.1 災害ボランティアの受け入れ体制」を追加した。
- ・P52: 風水害・土砂災害の内容を新潟県の最大値とした。

次項へ

- ・資料編：予測の方法、目標値の設定や削減量などについて記述するとともに、市民・高校生・事業者のアンケート等を掲載した。
- ・このほかの資料として、委員から事前に頂いたご意見に対する回答を配布した。

委員) 当日配布された「委員からのご意見とその回答」について、要点を説明したい。

- ・将来の予測方法についてはこの回答で納得した。
- ・前計画から10年間、市ではごみ有料化について検討していると思う。10年間減量に取り組み、もし減量できなければ有料化に踏み切ることになっていたと思う。
- ・10年経ったが、ごみは減量するどころか増加している。そして、今回の基本計画で再び「ごみ有料化を検討」となっている。
- ・本編P30には「ごみ有料化の検討」ではなく「ごみ減量化実施計画の策定」と入れるべきである。
- ・市は、市民等の同意を得て、ごみ有料化を速やかに実施すべきである。

議長) 審議会の意見というのは重みがあるものである。市は十分に検討する必要がある。

委員) 再び10年後にごみが減量されていなければ、その時の審議員として責任を感じてしまう。5年間の横ばい傾向のごみ量推移から、今後10年間で市が考えているように削減することはできるのか。

事務局) ごみ有料化については、分別説明会などで市民に説明している。

- ・アンケートでは、「ごみ有料化すべき」が11%となっているが、実際に市民と話すと、レジ袋有料化を含め関心が高いと感じている。
- ・ごみ有料化による負担の公平性の点についてはご理解を頂いているものと考えている。
- ・「具体的な削減対策例」を実施していくことで、目標を達成することは可能であると考えており市民に取り組みやすいものを周知し、目標達成に向けごみ減量化に取り組んでいく。

議長) 本計画書を議会に諮ったというが、ごみ有料化について意見は出なかったのか。

事務局) ごみ減量化に関する意見は出ていた。ごみ減量化に関して最後の手段となるのは、ごみ有料化だと考えている。

委員) 第1期ごみ処理基本計画では、有料化を実行するつもりだったのか。

事務局) 実行するつもりで「取り組み」としていた。ただし、今の段階では、ごみ有料化についての機運が醸成されていないため、「検討」とした。

議長) 5年後にごみ削減量を見直すことはあるのか。毎年実施計画を策定するのか。

事務局) 毎年実施計画を策定し検証していく。

- ・来年度以降の審議会ではごみ削減量の推移について説明する。
- ・ごみが減量していない場合は、対策を再検討する。

委員) 市が有料化に向けて努力するというのであれば、それを期待したい。

私の意見に関してはおおむね反映されているので良いと思う。

次項へ

委員) 概要版は作成するのか。

事務局) 作成する予定である。

議長) パブリックコメントが1件というのは、少なすぎる。ごみに対する意識が低いのではない  
か。アピールが必要である。

事務局) 引き続き市民等に対し周知を行っていく。

委員) 市民一人ひとりのごみに関する危機感が薄い、という印象を持っている。もっと市は市民  
に周知をして欲しい。(意見)

今の状況ではごみは減らないので、資源の分別を徹底することが必要である。(意見)

委員) 主婦は、分別が最重要と考えている。減量化のことは考えていないのではないか。減量  
カレンダーといったものを全戸配布した方がよいのではないか。(意見)

委員) 前計画時の審議会では、具体的な生ごみの減量化方法などを紹介していた。

議長) 減量カレンダーは可能ではないか。前向きに検討してほしい。(意見)

委員) 事業所アンケートで、スーパーの回答が0であった。市は、その業者に対してなにか働き  
かけはしなかったのか。

事務局) スーパーではなく、自営業やコンビニのことだと思う。これらの業者には配布したが回答  
がなかった。

委員) 浄化センター等からの排水の影響で生物がいかんにして生きられるか、といったことを考え  
ているのか。

事務局) 河川に放流するにあたり基準値を下回ることにより、生態系に影響がないようにしている。  
それにより魚が住める環境を作りたいと考えている。

委員) マイバッグだと自分で袋に入れるため、「万引きを疑われないか」と) 買い物を躊躇した  
という話をされた方がいた。袋を買ってでもスーパーの袋を使いたがる人もいるだろうと  
思うのでそれに対する対策も必要と考える。(意見)

議長) 委員全ての意見が反映されたと認識している。これにて第4回審議会を終結する。

#### 4 その他

事務局) 今後、表紙を作成するとともに、概要版も作成する。

今審議会は令和2年3月31日をもって任期終了となる。

議長) 4月1日からは新しいメンバーで審議会が開催される。

・その時には大野最終処分場や新ごみ処理施設の見学会を実施したい。

#### 5 閉会

副会長あいさつ